



笠間市社会福祉協議会

大橋支部

だより

第2号

平成二十五年度の事業を振り返って

大橋長寿会

平成25年度の主な行事は、輪投げ毎月2回、リハビリ体操同じく2回、ゲートボール毎週月曜日などです。他に岩瀬城観劇を4回、公民館花壇の除草を3回、6月には花壇やプランターに32区の皆さんと一緒に花の苗を移植したりしました。7月12日には、笠間保健センターから来ていただいて、腰痛予防のお話をしてもらったり、また、血圧測定もお願いしました。笠間支部芸能発表会や、大橋公民館芸能発表に参加したり、ホロルの湯にも2度入りに行きました。総会の前には輪投げの練習をし、総会終了後は、リハビリ体操と山ゆりサロン会を実施しました。最後にお寿司や飲物・果物などをみんなで楽しく食べて終わりました。



親子移動教室

平成25年8月22日に親子で笠間市内名所めぐりをしました。はじめに、稲田の石切山脈を見学しました。採石場は広くてしかも深いのにびっくりしました。明治時代に鍋島彦一郎という東京の石材問屋さんが、水戸線に土地を寄付して稲田駅を誕生させたり、採石場からトロッコ軌道を作った結果、稲田のみかげ石が一躍有名になったそうです。国会図書館・最高裁判所・広島平和記念碑などに使用されています。

次に浄土真宗という教えを開いた親鸞（しんらん）聖人が20年間本拠地としていたという西念寺へ行きました。「弁念会心の桜」や「御杖杉」「お葉つきいちよう」「蒲原の井戸」など親鸞ゆかりのものがたくさんあり、歴史の重みを感じました。

明治・大正・昭和の三代にわたって活躍した日本画家「木村武山」の生家にある「大日堂」にも行きました。中には大日如来が安置されており、周りの壁面には美しい仏画が描かれておりました。



午後は、陶芸美術館で開催されている第13回全国こども陶器展を鑑賞したあと、山下りん記念館を見学しました。「りん」は明治のはじめにロシアに渡って絵を学び、帰国後は東京お茶の水のニコライ堂の一室にこもり、ひたすら宗教画を描き続けていました。近年アイコン画家（キリスト教にかかわる絵）として高く評価されています。

最後にエコフロンティアかさまを見学しました。社会が進歩するにしたがって廃棄物が増大し、捨てる場所が問題となりました。そこで茨城県では、230億円をかけて日本最大級の廃棄物処分場を建設しました。高温で燃やしたりとかしたりするところを直接見ることができました。また、捨てる場所も広々としていました。

今日は盛りだくさんで、たいへん充実した一日でした。

ふれあい訪問



平成25年12月2日にふれあい訪問を実施しました。大橋地区と池野辺地区の「あさぼうボランティア」の活動の一環として行ったものです。米や新鮮な野菜などを持ち寄り、大橋公民館で高齢者の好みに合ったおいしいお弁当をみんなで心をこめて作りました。75歳以上の一人暮らし高齢者の方々が対象となります。お年寄りの喜ぶ笑顔を想像すると、作る方も自然に楽しくなっています。できあがったお弁当をもって自宅を訪問し、いろいろな世間話をしているといつしか笑顔が生まれます。今後も続けていき、一人暮らしの高齢者が安心して暮らせる地域づくりの一助となればと思っております。



芸能発表会

平成26年3月9日に大橋公民館で芸能発表会を開催しました。参加者は17名で殆どがカラオケでしたが、詩吟を吟じた方もおりました。9時から始めまして楽しく時を過ごしました。最後に「ふるさと」を合唱したあと和気あいあいのうちに昼食をとり、参加賞をいただいて解散しました。

33区では、県道沿いの花壇を管理しております。6月2日には、区民の他に子供会の皆さんの協力も得て、サルビア・マリーゴールド・コキアなどの移植をしました。また、秋には、パンジーや葉ボタンの植付け作業をしました。三世代の人々が心を合わせて作業をしました。追肥や除草など、手入れを怠らずに立派な花を味かすことができ、道行く人々を楽しませることができました。

花いっぱい運動

